

国の交付金を活用し、農業の生産現場の課題をデジタル技術などの先端技術を用いて解決しようとする「スマート農業」の取り組みが進められています。

幻の白いも「七福芋」しちふくいも

幻の白いもといわれる「七福芋」はサツマイモの一種で、皮が白っぽいのが特徴。愛媛では、本市の唯一の離島である大島だけで栽培されており、大島で収穫した七福芋は、熟成させると糖度15%と甘味が強く、メロン並みともいわれます。土壌や

気候の影響を受けやすく、他の土地では大島ほどの甘さにはならないといわれています。

挑戦！

スマート農業と七福芋

希少な七福芋も年々生産量が減少しています。そこで、この状況を打破すべく、いはいはま大島七福芋ブランド推進協議会や関係団体からなる市スマート農業推進グループが今年8月に発足。白いもの栽培にスマート農業を活用しようとする取り組みが始まりました。

取り組みの中心の一人、同協議会の白川真衣さんは「生産農家さんの減少や後継者の問題があり、このままでは大島の白いもは作られなくなってしまう。大島の白いもを絶やさないように取り組みを続けていきたい。スマー

大島の七福芋畑



スマート農業 × 七福芋 幻の白いも

大島のスマート農業（デジタル化）の概要

- ・種芋保管庫内の管理強化（温度、湿度、CO2 など）
- ・苗床ビニールハウス内での育成データ管理※
- ・圃場の育成データ管理※
- ・電気柵電圧監視システム（遠隔監視）

※温度、湿度、日射照度、土壌温度、土壌体積含水率、土壌電気伝導度など



ト農業の導入で島に点在している畑の管理が行き届くようになれば、より良い芋を皆さんにお届けできるようになると思う。また、スマート農業で取れたデータを活用できれば、増産や新たな生産者につながっていくのでは」とスマート農業と七福芋の可能性に期待を膨らませます。

市は今後、数年かけて

データ収集・分析を行い、七福芋の生産量拡大とブランド化の推進を図っていきます。

【問い合わせ】

農林水産課

☎ 65・1262



七福芋収穫作業中の白川さん



幻の白いも「七福芋」